

食農融和 シンポジウム

主催：(社)日本農業法人協会・(株)ビジネスガイド社

食料自給率向上に向けて稲作経営と養鶏経営の農業法人による飼料米の広域的な取組みがスタートしました。さらに、この取組みに消費者団体が連携することで、国産原料使用を付加価値として提案する新たな商品が生まれました。

今回のシンポジウムでは、国産原料の飼料に関わる生産者と畜産需要者、そして新たな商品開発・販売までの取り組みを、3人のパネリストから報告し、飼料米に対する政策や農業現場と、国産飼料による付加価値商品の開発現場の「いま」をご紹介します。

プログラム

開 会

テーマ：「食料自給率向上に向けた

飼料米による農消連携の取り組み」

15:00

|

16:30

パネラー：笠原節夫、芹田省一、山口友範

コーディネーター：藤井浩太郎

【討議のポイント】

- 飼料米による農業法人の耕畜連携
- コスト管理と品質管理
- 消費者団体との連携による商品提案

閉 会

ご来場の皆様にお願ひ

皆様のご意見・ご質問などを頂きながらシンポジウムを進めて参ります。
明日の日本農業に対する日頃の思いをぜひご披露ください。

平成22年9月8日(水) 15:00~16:30

東京ビックサイト東展示棟 第8回グルメ&ダイニングスタイルショー秋 2010 キッチンステージ

笠原 節夫

神奈川県：

(株)八千代ポトリー
代表取締役
(有)横浜ファーム
代表取締役

鶏卵、鶏肉、生鮮食料品の販売を行う(株)八千代ポトリーから生産部門を独立し、(有)横浜ファームを設立。鶏舎等の合理化を進め、衛生管理と省エネを徹底、廃棄物排出の減少にも取り組む。既存のナショナルブランド商品の拡販と付加価値のある商品開発を続けている。

平成15年度全国優良認定農業者経営局長賞受賞。現在、神奈川県農業法人協会会長。

芹田 省一

秋田県：(有)せりた
代表取締役

1950年秋田県山本郡峰浜村生まれ。昭和47年3月東京農業大学農業経済学科卒業。同年4月より大潟村に3次(昭和44年)入植した父親の後継者として就農。農業の基本は自給自足との理念から、生産に特化して、無農薬の「あきたこまち」を栽培するほか、大豆の無農薬栽培にも取り組む。加工品は、もち加工・醤油・納豆・味噌・きなこ・豆菓子・漬け物を商品化している。現在、秋田県農業法人協会会長。

山口 友範

生活協同組合連合会
ユーコープ事業連合
安全政策推進部長

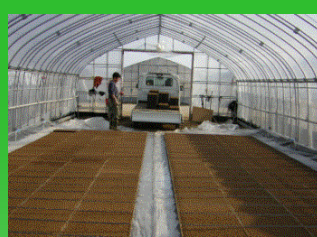
1969年兵庫生まれ。逗葉高等学校、日本大学卒。生活協同組合コープかながわ店舗で青果、精肉、鮮魚を経験。

1999年にユーコープ事業連合に出向し、生鮮商品部鮮魚Gを10年間経験。2009年より安全政策推進部長としてユーコープグループの商品政策、商品活動企画(組合員活動)、仕様書管理データシステムを担当。食品安全チーム会事務局長兼任。

藤井 浩太郎

岡山県：芳井殖産(株)
専務取締役

1961年岡山県生まれ。興譲館高等学校、京都学園大学卒。横浜で不動産販売、大阪でファミレス、岡山でおもちや、雑貨などを経験し、平成6年家業を継ぐ。平成7年芳井殖産株式会社設立。昭和55年設立の(農)芳井ポトリー(農場は法人として認定農業者)をケージ飼育から平飼いに切替え、平成19年より現在約1万羽飼育。岡山から関西方面を中心に平飼卵、平飼卵の加工品を出荷。平成19年より岡山県農業法人協会会長・(社)日本農業法人協会理事。



事務局：(社)日本農業法人協会 政策課

〒102-0084 東京都千代田区二番町 9-8 中央労働基準協会ビル 1F

TEL：03-6268-9500 FAX：03-3237-6811・HP <http://www.hojin.or.jp>